

兵庫県こころのケアセンター 令和2年度実施分に係る
外部評価委員会 事業評価

評価対象事業	評価	所 見
研修事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・研修内容等の見直しにより、近年ますます要望される「子どものトラウマインフォームド・ケア」に関する研修を実施していることは、地域支援機関のニーズに合致している。当センターの特色を生かした領域を基礎研修として設定し、受講者アンケートでも高評価であり、県外からの受講希望が多いことは高く評価できる。 ・コロナ禍の中で専門研修の一部が開講できず受講者が目標人数を下回ったことは致し方ないが、COVID-19パンデミック収束の目途が立たないため、今後は代替措置としてオンラインを積極的に活用するなどして受講生の増加に努めていただきたい。
情報の収集 発信・普及 啓発事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・こころのケアシンポジウムは、子どものトラウマ・虐待というタイムリーでニーズの高いテーマを選択して実施し、参加者評価も高い内容になっていた。また、「トラウマ体験を有する発達障がい児者への支援」といったトラウマ体験を定型発達児童よりもより多く受けていると推定される発達障がい児に着目したことは、意義深いと考える。 ・ホームページはリニューアルにより、レイアウトが変わり、見やすく、インパクトのあるキーワードが付され、探している資料も見つけやすくなっており、ユーザーフレンドリーの観点から高く評価する。今後、より使いやすいスマホ・タブレット対応の情報発信にも期待する。
連携・交流 事業	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中においても、オンラインを活用するなどして、継続的な精神保健活動を支援するとともに、新たな課題である新型コロナウイルスに関する危機対応として25回もの地域支援活動を展開したことを高く評価。コロナの影響は当分継続すると思われるので、当該活動の引き続きの実施を強く期待する。 ・より専門性を高める必要のあるDPATの研修や様々なトラウマ事象に備えるためのこころのケア研修は、当センターならではの取り組みであり、関西圏域のDPAT連携体制の推進は、いつ起こるか分からない大災害の備えとして重要な取り組みである。 ・今後も専門性高く、新しい技術を取り入れ、先進的な連携・交流事業を期待する。
相談事業	S	<ul style="list-style-type: none"> ・目標相談件数1400件／年を大きく超える2018件もの相談に対応したことを高く評価する。トラウマ・PTSD相談、とりわけ虐待・DV、性被害相談が相談内容の多くを占めており、地域の医療機関や相談機関との連携が進み、当センターの専門性が発揮され、地域における役割が明確になっている。引き続き、学校や医療機関等との連携を深めながら相談対応を継続してほしい。また、相談支援のノウハウ（入口・継続・終結等）を、兵庫県外にも広く伝えていただきたい。 ・さらに相談件数が増加する場合、相談員の増員等、体制員強化を検討する必要があるのではないか。

評価対象事業	評価	所 見
附属診療所の運営	A	<ul style="list-style-type: none"> ・一般精神医療で対応しづらい難しい事例を丁寧に治療されており、専門治療も積極的に実施している。昨年度と比べ受診件数は若干減少しているものの、初診者数は増えていることから、当センターの専門治療のニーズが高く、社会的貢献に繋がっていると考える。複雑で困難なトラウマ・PTSD 関連疾患への専門的診療機関としての機能が、今後とも発揮されることを期待する。 ・土曜日の診療件数が前年度比約 20%増となっていることは、土曜日の診療が受診者やその家族にとって利便性が高いことの証左であり、継続していくことが望ましい。 ・新型コロナ対策として、電話やオンライン診療に対応していることを評価する。一方で、電話/オンライン診療における課題があれば、早期の対応が必要。
ヒューマンケアアカレッジ事業（音楽療法士養成講座）	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響から、講座の実施等が限定的になった（※注）ことは致し方ない。継続課題になっている音楽療法自体のあり方検討に加え、コロナ禍の影響で、なかなか成果を出しづらかった1年だったと推察される。 ・音楽療法の普及が望まれる中、コロナ禍で Web 開催にそぐわない音楽療法士養成講座をいかに開催するかが大きな課題である。引き続き検討をお願いするとともに、コロナ禍で制約があるなか、基礎、専門、現認者それぞれの力量形成、向上につながるような講座や事業が進められることを期待する。 <p><small>（注）専門講座の実践論分野と関連領域分野の開講延期に伴い同時期に実施することが困難な実技分野の開講を見送った結果、3分野全ての修了が要件である専門講座修了者は0となった。また、専門講座修了後に実施する実践経験が施設等の立ち入り制限により実施できないため、新たな受講者募集につながる基礎講座の開講も見送った。</small></p>
ヒューマンケアアカレッジ事業（実践普及講座）	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、家族の介護、看取りが十分できない現状において、ますます重要な課題と考える。意欲ある受講生から高い評価を得られた成果は、充実した講座内容に基づくものであろう。今後の講座のあり方の一つのモデルにしていただけとありがたい。 ・受講後の活動報告においても、講座での学びが生かされている声が実際に届いており、本事業の価値が確認されていることを高く評価する。 ・県民の健康づくりや地域福祉の向上に寄与するために、継続して講座が実施されることを期待したい。
安定的な運営のための収支バランスの確保等	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中で、患者の受診控えなど診療に影響があったと推察されるが、オンライン診療や電話診療など工夫や自助努力により収支がプラスであったことなど、安定的な運営ができています。 ・スタッフの献身的な活動の成果であるが、働き方改革・ワークライフバランスが進められる中、残業時間・年休消化などの把握・検討も求められる。
研究調査に係る総合的な評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・トラウマに満ちた現代社会において、トラウマインフォームドケアの普及は喫緊の課題であり、当センターが先導的役割を果たした。短期研究では、発達障害と感染症パンデミックと、喫緊に対応すべきテーマを取り上げている。 ・競争的資金による研究では、外部研究資金を獲得し、その成果の研究誌への投稿など、当センターの研究者と研究テーマが高く評価されている。 ・各研究テーマについて、そのテーマが設定された背景や経緯、成果の活用方法などを簡潔にわかりやすく記載することで、その有用性や価値について理解がより進むと思うので、次回以降配慮願う。

（評価基準）

S：年度計画を大きく上回り、中期計画を十分達し得る優れた業績を上げている。

A：年度計画どおり、中期計画を十分達し得る可能性が高い。

B：年度計画どおりと言えない面もあるが、工夫もしくは努力によって中期計画を達成し得る。

F：年度計画を大きく下回っている、又は中期計画を達成し得ない可能性が高い。